

2017年度 教員実績

凡 例

教員業績は、表象文化論コース、比較文学比較文化コース、文化人類学コースの順に、そして教員名は五十音順で並べられている。各業績を、以下のように、3つの大きな項目に分けて紹介している。

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
 - 1. 単著
 - 2. 編著
 - 3. 共著
- (2) 論文
 - 1. 単著
 - 2. 共著
- (3) 学会、研究会発表
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等その他

2. 教育実績

- (1) 2017年度の前期課程担当授業科目名一覧
- (2) 2017年度の後期課程担当授業科目名一覧
- (3) 2017年度の大学院担当授業科目名一覧
- (4) 2017年度に担当した特筆すべき他学部、他研究科、他大学の授業科目

3. 学内行政業務

2017年度に担当した主な役職、学内委員、特記すべき業務

表象文化論コース

||| 一條 麻美子

1. 研究・研究成果の公刊

- (5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他
 - ・翻訳 クラウディア・布林カー・フォン・デア・ハイデ著 『写本の文化誌』 白水社

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
初修ドイツ語、共通ドイツ語
- (2) 後期課程担当科目
言語芸術論I
- (3) 大学院担当科目
表象文化史II

||| オデイ、ジョン

1. 研究・研究成果の公刊

- (3) 学会、研究会発表
 - ・“The colour of darkness: Lessons from blackness about the nature of colour.” Hiroshima Philosophy Forum #1: Mind & Cognition, Hiroshima University, April 19th, 2017.
 - ・“Are Darkness and Blackness the Same Colour? A problem for chromaticity-based accounts of colour.” Workshop on Color Primitivism and Non-reductive Minds, Brandon University, Winnipeg, Canada, May 17, 2017.
 - ・“Is Picture Perception Confined to Vision?” Japan Philosophy of Science Society Conference, University of Tokyo (Hongo Campus), November 19, 2017.

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
Introduction to Philosophy (PEAK)、中級英語
- (2) 後期課程担当科目
Historical Introduction to Analytic Philosophy
- (3) 大学院担当科目
Metaphysics and Epistemology、Philosophy of Images

3. 学内行政業務

ALESS/ALESS マネージングディレクター

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

- ・「現代美術史のなかの HISASHI」『岡崎和郎 HISASHI』(ART OFFICE OZASA、2017年)、41-43頁。
- ・「幻触再考 石子順造やもの派との関係を見なおす」『re-「幻触」』(鎌倉画廊、2017年)、8頁。
- ・« *En embrassant une perspective de Oura Nobuyuki, et Culture et Politique des années 1980 au Japon.* » *Implications Philosophiques* (août 2017).
- ・“Japanese Art Projects in History.” *Field: A Journal of Socially-Engaged Art Criticism*, no. 7 (spring 2017).

(3) 学会、研究会発表

- ・「テクノロジー・メディア・ミュージアム」(シアターコモンズ・ラボ、森山直人ラボ「芸術史と「いま・ここ・わたし(たち)」を接続する技術」、東京、みなとパーク芝浦、2017年12月21日)。
- ・「テセウスの船としての現代美術」(京都市立芸術大学芸術資源研究センター・国府理「水中エンジン」再制作プロジェクト実行委員会・兵庫県立美術館主催シンポジウム「過去の現在の未来2 キュレーションとコンサベーション その原理と倫理」、神戸市、兵庫県立美術館、2017年11月23日)。
- ・「中原佑介における美術と社会」(猿楽祭シンポジウム「つながる 代官山——アートプロジェクトが つなぐ都市の記憶と風景」、東京、ヒルサイドプラザ、2017年10月8日)。
- ・「アンフォルム化するモダニズム カラーフィールド絵画と20世紀アメリカ文化」(「岩井克人先生文化功労者顕彰記念コンファレンス」、東京、一橋講堂、2017年7月22日)。
- ・“Contemporary Art Outdoor Festival Controversy,” “Engaged Critic, Radical Art: Yoshida Yoshie in Art and Performance,” University of California, Los Angeles, Feb 20, 2018.

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「ソーシャリー・エンゲージド・アートの批評基準」『美術評論家連盟会報 aica JAPAN NEWS LETTER ウェブ版』第7号(2017年11月)、4頁。

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・「美術」『現代用語の基礎知識2018』(自由国民社、2018年)、887-893頁(建畠哲との共同執筆)。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

英語一列、共通英語、美術論

(2) 後期課程担当科目

表象文化史演習

(3) 大学院担当科目

アート・マネジメント論I

3. 学内行政業務

広報委員会、AIKOM委員会、国際日本研究コース運営委員会

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

・小森陽一ほか編著『漱石辞典』(翰林書房)分担執筆、全830頁。2017年5月24日

(3) 学会、研究会発表

・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業主催「近代日本の人文学と東アジア文化圏——東アジアにおける人文学の危機と再生」シンポジウム「戯曲を新たに翻訳する意義とは? ——シェイクスピアの場合、現代演劇の場合」早稲田大学戸山キャンパス36号館681教室 2018年1月13日

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・書評:瀬戸宏著『中国のシェイクスピア』、『中国研究月報』第71巻3号 2017年3月号(4月1日) 46-47ページ

・演劇時評:「演劇時評第一回 河合祥一郎×高野しのぶ」『悲劇喜劇』2017年5月号(4月7日) pp. 179-203

・記事: Stage『ハムレット』、『中央公論』2017年5号(4月10日) p. 24

・記事: Stage『グレート・ギャツビー』、『中央公論』2017年6号(5月10日) p. 20

・演劇時評:「演劇時評第二回 河合祥一郎×高野しのぶ」『悲劇喜劇』2017年7月号(6月1日) pp. 177-205

・記事: Stage『罫籠城の七人』、『中央公論』2017年7号(6月10日) p. 32

・エッセー:「シェイクスピア・スペクタクル歴史絵巻 決定版の誕生!」、映画『嘆きの王冠 ホロウ・クラウン』プログラム(2017年6月17日)執筆監修 n.p.

・記事: Stage『子午線の祀り』、『中央公論』2017年8号(7月10日) p. 24

・演劇時評:「演劇時評第三回 河合祥一郎×高野しのぶ」『悲劇喜劇』2017年9月号(8月1日) pp. 178-205

・記事: Stage『プレイヤー』、『中央公論』2017年9号(8月10日) p. 44

・書評: イアン・モーティマー著、市川恵里、樋口幸子訳「シェイクスピアの時代のイギリス生活百科」、『しんぶん赤旗』2017年8月20日7面

・記事: Stage『謎の変奏曲』、『中央公論』2017年10号(9月10日) p. 24

・記事:「演劇界を牽引 半世紀 ピーター・ホールさん 英演出家」『毎日新聞』(2017年10月9日)5面

・解説:「ハムレットを待ちながら」、ハヤカワ演劇文庫、小川絵梨子訳『トム・ストッパードⅢ、ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』解説、早川書房(2017年10月10日)、全240頁、227-237頁。

・解説:「『シェイクスピアの面白さ』の面白さ」、講談社文芸文庫、中野好夫『シェイクスピアの面白さ』解説、講談社(2017年10月10日)、全252頁、234-241頁。

・記事: Stage『トロイ戦争は起こらない』、『中央公論』2017年11号(10月10日) p. 36

・記事: Stage『取引 THE DEAL』、『中央公論』2017年12号(11月10日) p. 24

・記事: Stage『The Beauty Queen of Leenane』、『中央公論』2018年1号(12月10日) p. 24

・記事: Stage『黒蜥蜴』、『中央公論』2018年2号(1月10日) p. 24

・記事: Stage『岸 リトラル』、『中央公論』2018年3号(2月10日) p. 24

・記事: Stage『江戸は燃えているか』、『中央公論』2018年4号(3月10日) p. 32

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・翻訳：シェイクスピア『新訳 まちがいの喜劇』角川文庫(角川書店)、全132頁。2017年6月25日初版
- ・翻訳：ソポクレス『オイディプス王』光文社古典新訳文庫(光文社)、全166頁。2017年9月20日初版
- ・翻訳：ヒュー・ロフティング『100年後も読まれる名作 ドリトル先生航海記』(アスキー・メディア・ワークスプロデュース、株式会社KADOKAWA発行)、全146頁。2017年9月15日初版
- ・翻訳：C・S・ルイス『ナルニア国物語1 ライオンと魔女と洋服だんす』(アスキー・メディア・ワークスプロデュース、株式会社KADOKAWA発行)、全237頁。2017年10月15日初版
- ・翻訳：ジェイムズ・シャピロ『『リア王』の時代——1606年のシェイクスピア』(白水社)、全544頁。2018年1月31日初版
- ・翻訳：C・S・ルイス『ナルニア国物語2 カスピアン王子と伝説の角笛』(アスキー・メディア・ワークスプロデュース、株式会社KADOKAWA発行)、全278頁。2018年2月15日初版

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
英語一列、総合科目L
- (2) 後期課程担当科目
舞台芸術論Ⅱ、イギリス表象芸術論
- (3) 大学院担当科目
表象文化論実験実習Ⅲ

3. 学内行政業務

表象文化論コース主任、英語部会人事委員長

||| 韓 燕麗

1. 研究・研究成果の公刊

- (3) 学会、研究会発表
・「返還20年の香港映画を振り返る」日本現代中国学会関西部会2017年度大会共通論題、2017年6月3日。
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
・書評：『日中映画交流史』、『映像学』第98号(日本映像学会)、2017年7月、p. 77～p. 80。

||| 桑田 光平

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
3. 共著
・パトリック・ドゥヴォス、桑田光平『フランス語Ⅰ('18)』、放送大学教育振興会、2018年3月、251頁。
・荒谷大輔、池松壮太、桑田光平、小長野航太『ラカン『精神分析の四基本概念』解説』、せ

りか書房、2018年2月、250頁(うち59-76頁担当)

(2) 論文

1. 単著

- ・「ピエール・ルヴェルディのノート」、中央大学人文科学研究所編『モダニズムを俯瞰する』、中央大学出版部、2018年3月、207-238頁。
- ・「フランス現代アート雑感」、『中央評論』302(冬)号、中央大学出版部、2018年2月、57-69頁。
- ・「言葉はいつも水辺で生まれる——望月遊馬について」、『ポスト現代詩ノート vol. 9』、詩の練習、2017年12月、21-24頁。
- ・「[現代アート]の現代性について」、東京大学教養学部編『分断された時代を生きる』、白水社、2017年7月、190-201頁。

(3) 学会、研究会発表

- ・「ジャコモメッティと詩人たち」、2017年7月21日、於・新国立美術館(東京)。

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「ジャコモメッティと同時代の詩人たち」、『ジャコモメッティ』展カタログ、TBSテレビ、2017年6月、178-179頁。

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・マニユエル・タルディッツ編『日本、家の列島』、パナソニック汐留ミュージアム『日本、家の列島』展カタログ(石川裕美ほかとの共訳)、2017年4月。

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

フランス語一列、フランス語初級(演習)、フランス語上級(読解)

(2) 後期課程担当科目

表象メディア論、共通フランス語(10)(精読)

(3) 大学院担当科目

表象文化論実験実習Ⅱ、多文化共生・統合人間学演習Ⅰ

3. 学内行政業務

教務委員、美術博物館委員

||| 清水 晶子

1. 研究・研究成果の公刊

(2) 論文

1. 単著

- ・「ダイバーシティから権利保障へ——トランプ以降の米国と『LGBTブーム』の日本」『世界』2017年5月号、2017年、pp. 134-43.

(3) 学会、研究会発表

- ・“Manipulated Distance and the Refusal of Touch”(国際学会)、2018/03/15、SCMS 2018、Sheraton Centre Toronto (Toronto, Canada).
- ・「クィア・ポリティクスとポリティカル・コレクトネス」日本社会学会、2017/11/4、東京大学(東京都)

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・意見書「アウトティングの暴力と教育機関に期待されるアウトティング対応について」(東京

地方裁判所宛)、2017/5/6.

- ・「アカデミアにおける(ヘテロ)セクシズム」(招待講演)、2017/6/16、京都自由大学(京都市)
- ・「表象と倫理：性表現の政治」(招待講義)、2017/8/30、AMSEA(東京都)
- ・「ダイヴァーシティ基礎講座 第二回 ダイヴァーシティとく市場」(招待講義)、2017/9/29、Hab-Yu Platform(東京都)
- ・「バックラッシュ、『同性婚』、憲法24条』、『女たちの21世紀』No. 90、2017年6月号、pp. 12-14.

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
表象文化論
- (2) 後期課程担当科目
表象文化論特殊研究演習
- (3) 大学院担当科目
文化創造論I、規範と差異IV
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
ジェンダー、セクシュアリティと批評理論(国際基督教大学)

3. 学内行政業務

学友会評議委員、英語部会教務委員、施設整備検討特別委員、LAP執行委員、英語教育プログラム運営委員

||| 高橋 哲哉

1. 研究・研究成果の公刊

- (2) 論文
 1. 単著
 - ・『『日本人よ』と問うのは誰か——基地「引き取り」論の射程：仲里効氏に答える(続)』『N27「時の眼—沖繩」批評誌』第1巻第8号、25頁～42頁
- (3) 学会、研究会発表
 - ・「主権とユートピア——沖繩をめぐる」第28回新潟哲学思想セミナー、於：新潟大学
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・『『国体の本義』解説』、韓国語版『国体の本義』、一橋大学韓国学研究所
 - ・座談会「犠牲の再生産に抗うために—高橋哲哉さんと語る」、『福音と世界』第73巻第3号

2. 教育実績

- (2) 後期課程担当科目
現代思想特殊演習I、表象システム論演習I
- (3) 大学院担当科目
文化ダイナミクス演習II、生命と尊厳I、人間の安全保障基礎論II、社会思想変動論I
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
韓南大学(韓国)特別講座「沖繩とは何か」

3. 学内行政業務

副研究科長・副学部長

滝浪 幸次郎

2. 教育実績

- (3) 大学院担当科目
超域文化科学特殊演習I

3. 学内行政業務

- 国際交流・留学生委員

田中 純

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

1. 単著

- ・『歴史の地震計——アピ・ヴァールブルク『ムネモシユネ・アトラス』論』、東京大学出版会、2017年、376頁。

(2) 論文

1. 単著

- ・「イメージを喰うサトゥルヌス——ヴァールブルクとゴヤ」、『UP』536号(2017年6月号)、東京大学出版会、2017年、47～53頁。
- ・「朔太郎の青——W・ベンヤミンを補助線として」、『UP』539号(2017年9月号)、東京大学出版会、2017年、47～53頁。
- ・「美のトポス、その限界と外部——W・メニングハウスの著作を手がかりに」、『思想』1123号(2017年11月号)、岩波書店、2017年、6～27頁。
- ・「死者の像の宛先——スーザン・ソントグの亡骸」、『UP』542号(2017年12月号)、東京大学出版会、2017年、43～49頁。
- ・「歴史叙述における「キマイラの原理」——カルロ・セヴェーリ『キマイラの原理』、ヘイドン・ホワイト『実用的な過去』」、10+1 web site, Web. 25 Dec. 2017. <http://10plus1.jp/monthly/2018/01/issue-01.php>
- ・「見えない瓦礫を投げる——「蜂起」の身振りをめぐって」、『UP』545号(2018年3月号)、東京大学出版会、2018年、26～33頁。

(3) 学会、研究会発表

- ・「(非)知の地震計たち」、シンポジウム「蜂起／野戦攻城2017@駒場——「出来事」(としての)知」、2017年7月29日、東京大学駒場キャンパス。

(4) 書評、記事、エッセー、その他

- ・「「もう一度」という思考の身振りへ向けて——竹峰義和『〈救済〉のメーデイウム——ベンヤミン、アドルノ、クルーゲ』書評」、『UP』535号(2017年5月号)、東京大学出版会、2017年、31～35頁。
- ・「書評: ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン『受苦の時間の再モンタージュ』」、『図書新聞』3312号、2017年7月22日、10頁。
- ・「黒い翁(サトゥルヌス)の子供たち——トリエンナーレを地底から撃つために」、2017年水族館劇場横浜寿町公演 fishbone 特別編集号、水族館劇場、2017年、13頁。

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

- ・翻訳: サイモン・クリッチリー『ボウイ——その生と死に』、田中純訳、新曜社、2017年。

- ・一般向け講演：「歴史の地震計から蜂起／野戦攻城へ または 身ぶりのちから」、アウトオブトリエンナーレ《盗賊たちのるなばあく》、2017年9月10日、寿町総合労働福祉会館建替え予定地（横浜寿町労働センター跡地）・水族館劇場。

2. 教育実績

- (2) 後期課程担当科目
表象文化基礎論
- (3) 大学院担当科目
表象文化論演習

3. 学内行政業務

副学長（人文社会科学分野振興担当）、駒場図書館長

||| 長木 誠司

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
- 2. 編著
 - ・共同監修（ヘルマン・ゴチェフスキ、前島志保）『会館芸術』 第Ⅱ期 戦中篇 全13巻（ゆまに書房）
- (2) 論文
- 1. 単著
 - ・「ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き（97）オペラ：愛の壊れるとき 1《オネーギン》（承前）」『レコード芸術』66(1), 66-70, 2017-01
 - ・「ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き（98）オペラ：愛の壊れるとき（2）ラ・トラヴィアータ」『レコード芸術』66(2), 64-68, 2017-02
 - ・「ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き（99）オペラ：愛の壊れるとき（2）ラ・トラヴィアータ（承前）」『レコード芸術』66(3), 62-66, 2017-03
 - ・「ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き（100）オペラ：愛の壊れるとき（3）ローエン格林」『レコード芸術』66(4), 62-66, 2017-04
 - ・「ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き（101）オペラ：愛の壊れるとき（3）ローエン格林（承前）」『レコード芸術』66(5), 76-80, 2017-05
 - ・「ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き（102）北京のさいたま人」『レコード芸術』66(6), 62-66, 2017-06
 - ・「ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き（103）アルマとアーノルト：ウィーンからアメリカへ」『レコード芸術』66(7), 59-63, 2017-07
 - ・「ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き（104）アルマとアーノルト：ウィーンからアメリカへ（承前）」『レコード芸術』66(8), 64-68, 2017-08
 - ・「ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き（105）オペラ：愛の壊れるとき（4）サムソンとデリラ」『レコード芸術』66(9), 66-70, 2017-09
 - ・「ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き（106）オペラ：愛の壊れるとき（4）サムソンとデリラ（承前）」『レコード芸術』66(10), 74-78, 2017-10
 - ・「ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き（107）音楽のモビリティ」『レコード芸術』66(11), 64-68, 2017-11
 - ・「ディスク遊歩人：音盤街そぞろ歩き（108）グラントペラと知覚の変容」『レコード芸術』

66(12), 64-68, 2017-12

(3) 学会、研究会発表

・国際シンポジウム「伊伊桑の『同時代』?」(11月18日、東京大学大学院総合文化研究科) 基調報告

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・書評：近藤譲著『聴く人(homo audiens)——音楽の解釈をめぐって』(東京：アルテスパブリッシング, 2013年12月31日, 178頁, ¥2,000 + 税, ISBN978-4- 903951-76-8)『音楽学』62(2), 101-102, 2017

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

ドイツ語初修

(2) 後期課程担当科目

表象文化史

(3) 大学院担当科目

アーツ・マネジメント

3. 学内行政業務

ピアノ委員長

||| ドゥヴォス、パトリック

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

3. 共著

・『フランス語 I ('18)』, 桑田光平と共著, 放送大学教育振興会発行, 2018年。

・『フランス語 II ('18)』, 森元庸介と共著, 放送大学教育振興会発行, 2018年。

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

・シルヴィアヌ・バジェス著『欲望と誤解の舞踏——フランスが熱狂した日本のアヴァンギャルド』(北原まり子・宮川麻理子訳)の監訳担当、慶應義塾大学出版会、2017)

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

フランス語演習、フランス語中級演習

(2) 後期課程担当科目

表象システム論、作文(中級)

(3) 大学院担当科目

文化ダイナミクス実験実習

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

リヨン第2大学舞台芸術学科集中講義「Perspectives internationales – arts de la scène du Japon」科目担当。(Célia Jésupretと共同担当)

3. 学内行政業務

初年次活動プログラム運営委員

1. 研究・研究成果の公刊

(1) 著書

1. 単著

・『思想としての言語』、岩波現代全書、2017年9月、全272頁

3. 共著

・“Confucianism in Modern Japan.” In *The Bloomsbury Research Handbook of Contemporary Japanese Philosophy*. Ed. Michicho Yusa. London, Oxford, New York, New Delhi, and Sydney: Bloomsbury, 2017, pp. 43-63

・“Japanese Nationalism in the Age of Globalization: Toward an Earthly Universalism.” In *Reimagining Nation and Nationalism in Multicultural East Asia*. Eds. Sungmoon Kim & Hsin-wen Lee. London and New York: Routledge, 2017, pp. 178-196.

・『『莊子』の身心変容技法』、鎌田東二編『身心変容のワザ——技法と伝承』、サンガ、2018年3月、312-325頁

・「デリダにおける中国／中国におけるデリダ」、池田喬・合田正人・志野好伸共編『異教の現象学——〈現象学の異境的展開〉の軌跡2015-2017』、〈現象学の異境的展開〉プロジェクト、2018年3月、189-208頁

(2) 論文

1. 単著

・《中國式普世與話語權》、《思想》第33期、台北：聯經出版公司、2017年6月30日、67-83頁

・《启蒙与宗教——胡适与福泽谕吉》、《现代哲学》第三期、广州：现代哲学杂志社、2017年5月、124-131頁

・「マイケル・ピュエット——中国哲学の現在地」、『中国 社会と文化』第32号、中国社会文化学会、86-100頁、2017年7月

・《白永瑞訪談録》、《思想》第34期、台北：聯經出版公司2017年12月、249-286頁

(3) 学会、研究会発表

・“Different Forms of Modern Enlightenment in East Asia.” « Savoirs, institutions, économies. Histoires connectées et dynamiques globales » du projet *Global History Collaborative*. EHESS, 5 mai 2017.

・“Confucianism in Modern Japan.” « Histoire du Japon moderne et contemporain : permanences et ruptures ». EHESS, 18 mai 2017.

・“Heavenly Universality or Earthly Universality?” Conférence du Centre Chine. EHESS, 23 mai 2017.

・《地上的普遍性和亚洲的灵性》、中文、第七届“亚洲宗教、艺术与历史研究”复旦大学夏季研修班、复旦大学光华楼主楼2801室、2017年6月26日

・“Taoist Modernity in Japan and China: Utopia and Distopia.” In Workshop on Japanese Philosophy “Repositioning Japanese Political Thought,” GJS, Institute for Advanced Studies on Asia, The University of Tokyo, on September 2, 2017.

・《迈克尔·普鸣——中国哲学当下的位置》、中文、国际学术工作坊《东西文明的交错与中国哲学：围绕《The Path》与普鸣教授对话》、駒場コラボレーションルーム1、2017年10月14日～15日

- ・ 東文研公開講座「アジアを越えて循環する知」東文研大会議室、2017年10月21日
- ・ “Confucian Modernity in Japan: Religion and the State.” In “Confucian Modernity as Japanese Experience in East Asian Context,” World Consortium for Research in Confucian Cultures. Kyoto University, November 3-4, 2017.
- ・ “Civil Society in the Post-Secular Age.” In International Conference “Rethinking Universalism and Global Citizenship from East Asia,” Yonsei University, Seoul, Korea, December 6, 2017.
- ・ 基調講演 “윤동주 우리의 동시대인”、Yoon Dong-Ju Centennial International Conference: “A New Path,” College of Liberal Arts Centennial Hall, Yonsei University, Seoul, Korea, December 8-9, 2017.
- ・ 「古代中国と近世日本における「古代」の表象——『荀子』を読む」、プリンストン・復旦・東大三校会議 Antiquity in Antiquity、2017年12月16日～17日
- ・ “Constitutionalism and Sovereignty: On Japanese Constitutional Problems.” In The Telos-Paul Piccone Institute conference on Constitutional Theory as Cultural Problem. Deutsches Haus, New York University, February 16-18, 2018.
- ・ “Confucian Modernity in Japan: Religion and the State.” China House and ICCT, New York University, February 20, 2018.
- ・ “Civil Society and Spirituality in the Post-secular Age.” In Symposium “Secular Religiosity and Religious Secularity: Rethinking the Asian Agency in the Shaping of Modernity.” Ito International Research Center, The University of Tokyo, March 9, 2018.
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・ Book Review on Prasenjit Duara, *The Crisis of Global Modernity: Asian Traditions and a Sustainable Future*. Cambridge: Cambridge University Press, 2015. “Dialogical Transcendence and Hope.” In *International Journal of Asian Studies*, 14, 2 (2017), pp. 197-206 © Cambridge University Press, July 2017.
 - ・ 書評「煩悶青年たちが読む親鸞」、『UP』540号、東京大学出版会、2017年10月号、53～59頁

2. 教育実績

- (2) 後期課程担当科目
表象文化論特殊講義I(倫理宗教論、専門英語)
- (3) 大学院担当科目
表象文化論演習II
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
中国哲学史

3. 学内行政業務

東洋文化研究所副所長、GLP-GEfIL 副室長、アジア研究図書館部会部会長

||| 乗松 亨平

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
3. 共著
 - ・ Călin-Andrei Mihăilescu and Takayuki Yokota-Murakami, eds., *Policing Literary Theory*,

Leiden: Brill, 2018. “Within or beyond Policing Norms: Yuri Lotman’s Theory of Theatricality” (pp. 111-134) を担当

(2) 論文

1. 単著

・「敗者の(ポスト)モダン」、『ゲンロン6』、2017年、54-75頁

(4) 書評、記事、エッセー、その他

・貝澤哉、乗松亨平、畠山宗明、東浩紀「共同討議 ロシア思想を再導入する：バフチン、大衆、ソボルノスチ」、『ゲンロン6』、2017年、22-53頁

・沼野充義、大石雅彦、乗松亨平「討議 生の全面的更新を目指して：芸術と／の革命 1913-1991」、『現代思想』10月号、2017年、130-157頁

・「並行的他者との出会いのために」、『ゲンロン7』、2017年、40-43頁

・乗松亨平、平松潤奈、松下隆志、八木君人、上田洋子「共同討議 歴史をつくりなおす：文化的基盤としてのソ連」、『ゲンロン7』、2017年、44-91頁

(5) 辞書編纂、翻訳、上演等、その他

・(翻訳)アレクサンドル・ドゥーギン「第四の政治理論の構築にむけて」、『ゲンロン6』、2017年、93-119頁

・(翻訳)オレグ・アロンソン「スターリン映画と社会主義リアリズム芸術」、『現代思想』10月号、2017年、158-168頁

・(翻訳)ドミトリー・ゴルィンコ＝ヴォルフソン「閉ざされたアクセスのポエジー：詩的イメージの対象化にむけて」、『現代思想』1月号、2018年、151-163頁

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

ロシア語科目

(2) 後期課程担当科目

表象文化論実習、ロシア地域特殊文化演習、専門ロシア語

(3) 大学院担当科目

表象技術論

3. 学内行政業務

ロシア語部会教務委員、ロシア語部会 TLP 委員、後期課程表象文化論コース副主任、紀要委員、総合研究棟管理委員

||| 松岡 心平

2. 教育実績

(1) 前期課程担当科目

日本語日本文学I、古典日本語、初年次ゼミナール文科、演劇論I、日本文化論I

(2) 後期課程担当科目

伝統芸能論I、学際日本文化論演習IV

(3) 大学院担当科目

伝統と創造I

||| 森元 庸介

1. 研究・研究成果の公刊

- (1) 著書
 3. 共著
 - ・『フランス語II('18)』(パトリック・ドゥ・ヴォスとの共著)、放送大学教育振興会、2018年。
- (2) 論文
 1. 単著
 - ・「演出、あるいは人間的生存の基底 ピエール・ルジャンドルのダンス論から」、『スポーツロジイ』第4号、2017年、pp. 164-208。
 - ・「いくつかの(書かれた)会話について」、『文芸研究』第135号、2018年、pp. 251-264。
- (3) 学会、研究会発表
 - ・「倒錯? 『わが隣人サド』から」、シンポジウム「[多様]と[特異]の作家 いま、クロソウスキーを(よ)みなおす」、東京藝術大学、2018年2月4日。

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
フランス語一列①、②、フランス語二列
- (2) 後期課程担当科目
言語芸術論II / フランス表象芸術演習、フランス表象芸術論
- (3) 大学院担当科目
文化クリティシズムI
- (4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目
青山学院大学「フランス文学特講」

||| 林 少陽

1. 研究・研究成果の公刊

- (2) 論文
 1. 単著
 - ・「章太炎與南方話語:章太炎影響下的清末革命青年」, 朱慶葆, 孫江主編『新學衡』第二輯, 南京大學出版社, 2017年9月, 79-93頁
 - ・Lin Shaoyang, Hong Kong amidst Colonialism, Collaborative, and Critical Nationalism from 1925 to 1930: the Perspective of Lu Xun and Confucius Revering Movement, *China Report*, 2018, 54 (1) (Jan, 2018): 25-47.
- (4) 書評、記事、エッセー、その他
 - ・「詩と史——秋吉久紀夫の中国近代詩についての研究と紹介について」『詩と詩論』、第3巻総365号、2017年9月、52-58頁(東京:土曜美術出版)
 - ・「方法としての「六朝」——鄭毓瑜『姿と言』『引譬連類』を評す」、愛知大学現代中国学会編『中国21』、48巻、2018年3月号、東京:東方書店、227-232頁。

2. 教育実績

- (1) 前期課程担当科目
1 表象文化論、中国語二列

(2) 後期課程担当科目

文化社会論演習、表象文化論特殊研究演習、専門英語、共通中国語(上級読解)

(3) 大学院担当科目

文化制度論Ⅱ

(4) 他学部、他研究科、他大学の授業科目

日中比較文学(慶応大学大学院)

3. 学内行政業務

多文化共生・統合人間学プログラム(IHS)運営委員、GHP運営委員、紀要委員など